

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471100105
法人名	社会福祉法人 百鷗
事業所名	グループホーム びやくしんの苑
訪問調査日	平成20年3月13日
評価確定日	平成20年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1471100105
法人名	社会福祉法人 百鷗
事業所名	グループホーム びやくしんの苑
所在地	240-0113 神奈川県三浦郡葉山町長柄62-4 (電話)046-875-8925

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成20年3月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 3人, 非常勤 9人, 常勤換算 4 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	250 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1000 円			

(4)利用者の概要(3月3日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	横須賀北部共済病院、青木病院、古屋歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は社会福祉法人百鷗で、この逗葉地域で、葉山清寿苑からスタートし、逗子清寿苑、久木のデイサービスそしてグループホームとしてこの”びやくしんの苑”及び”葉山の里”を展開している。JR横須賀線逗子駅からバスで10分弱の所にある。近くに前述の”葉山の里”があり、交流がある。近隣は元々は丘陵で、高級住宅地であり、このホームは地元の人である大家さんからの借用で、近隣との関係は当初より良好であった。地形的には元は沢であり、きれいな水が流れ、虫が生息していたところで、いまだに、上流には虫が生息していると云う。山の植物も豊富で、季節の芹、土筆、蕨、露の菫、たらの芽、明日葉等が庭で採集でき、自然の恵みが食卓に上ると云う。食事には力をいれており、またマイナスイオン水を食事からお風呂にまで使用し美味しさと健康を追求している。ホーム全体のインテリアには従来以上に充実し、さながら美術ギャラリーの様相で、特に四季の移り変わりに応じて模様替えをすることで、利用者がそれに目を向け、変化に気付き、いやされ、また前向きに生きる活力を促している。エキサイサイズや文化活動を継続することによる刺激、体力の維持、新たな体験による活性化を推進している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価特に指摘事項は無かったが、ここのケアの方針である「その人の持っているものを大切に」に沿い①日常の製作活動を目標を持って、楽しくやってもらっている。例えばバザーや文化祭作品展に向けた作品を目標を持って楽しく行っている。②生活を中心としたリハビリの実施では、右脳、左脳の刺激を意識しながら歩行、体操、チームによる役割分担作業など利用者全員が何らかの形で関与する生活を行うなど日常生活でのADL低下防止活動を展開し効果が出ている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は必ず全員に記入してもらっており、今回も同様に全員に記入してもらい、管理者と正規職員で纏めた。職員全員は評価の意義を理解している。評価を実施するからではなく、日々利用者1人1人の意見を大事にしたり、苑内を綺麗にしたりして、心地よく過ごせるよう改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>営推進会議については、平成18年10月に利用者本人、ご家族、町内代表として民生委員、葉山町福祉課それにホーム関係者2名と云うメンバーで第1回目を開催した。テーマはグループホーム及び認知症についてのご紹介、利用者状況のご紹介、稼働状況のご紹介、行事業内などを行って来た。今後は営推進会議及び参加のメンバー個人の人脉などでご協力頂き、ボランティアの広がりや防災のご近所の協力依頼などについて相談して行きたい。近接する逗子市の葉桜自治会との交流も始まっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族とは何時でも相談出来る体制にあり、ホームの方針としても「キッチンとしたケアを行えばご家族にも伝わる」とのポリシーを持って介護を行っている。個人別の毎日の状況を介護内容記録としてパソコンに打ち込み、1か月分を纏めて写真を添えてご家族にお届けしている。パソコンに打ち込みは職員が交代で行っているため、その職員は利用者を理解する、その理解で毎日の暮らしの状況をご家族に伝えるのでご家族も理解すると云う良いサイクルが形成出来ている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>経営理念「温もり・優しさ・安心・地域とのふれあい」をモットーとし、利用者本位のサービスと地域とのふれあいを旨とし展開している。開設以来続けているバザーは6年目を迎えて地元に着定し、ホーム前の広場で開催、玄関を開放して出入り自由、ご利用者さんはご家族が専任でサポートする1大イベントとなり、ご近所でも開催を楽しみに待つようになっている。ホームの庭には近所の人から頂いた草木が沢山植わっている。長柄小学校では毎年統合学習で3年生1クラス(40名位)が訪問してくれている。同小のベルマーク集めにも協力している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人「百鳴」としての理念「温もり・優しさ・安心・地域とのふれあい」を掲げている。当社も利用者が今までと同じように地域の中で楽しく、心穏やかに生活できる様、日常生活や地域との交流をしながら、その人らしい暮らしができるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を共有し、理念は苑内各所に掲示している。年度別に事業計画を立てたり、理念の実践に取り組み達成できるよう努力している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や小学校とのふれあいフェスティバルや運動会、卒業式への招待や幼稚園との交流や、行事への招待、葉山町の福祉文化作品展への作品出品等をして交流に努めている。開設以来続けているバザーは6年目を迎え地元に着し、ホーム前の広場で開催、玄関を開放して出入り自由、ご利用者さんはご家族が専任でサポートする1大イベントとなり、ご近所でも開催を楽しみに待つようになっている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は必ず全員に記入してもらっており、今回も同様に全員に記入してもらい、管理者と正規職員で纏めた。職員全員で評価の意義を理解している。評価を実施するからではなく、日々利用者1人1人の意見を大事にしたり、苑内を綺麗にしたりして、心地よく過ごせるよう改善に取り組んでいる。	○	今後も向上心を持って取り組んでいきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年3月、7月、11月に実施した。メンバーは、葉山町福祉課職員、町内会代表(民生委員)家族代表、グループホームで構成し、年4回実施。苑内での現状報告や話し合いを行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは常に連絡をしており、情報交換している。		運営推進会議に出席して頂いたり、入退所検討委員会等に出席している。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回利用者の状況や近況の写真や金銭出納帳等を添えて報告。転倒があった時は早急に連絡したり、家族が安心できるよう、できる限り多種に渡って報告をしている。家族来苑時には、状況説明をし、希望や意見を聞き介護計画に反映している。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族に意見を聞き対応している。意見等はその都度ミーティングや会議、連絡ノートで伝えたりして話し合いをしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員でのケアを大切に、心地よい職場環境作りを。又代わる場合は利用者へのダメージを十分配慮している。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修年間計画を立て、段階的に研修に参加している。法人としても、資格取得やトレーニングしていく事を進めている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	葉山ではグループホーム同法人2件の為、法人同士の交流はしている。今後は逗子のグループホームとの交流を図っていく会議は出来ている。	○	今後は同業種との交流の機会を持ち、情報交換をしながらサービスの質の向上をさせていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の今までの生活状況を考え、本人が安心して場の雰囲気に慣れて馴染めるよう、その人らしく過ごせるよう、家族と相談しながら対応している。清寿苑関連の機能の有効活用をしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開設後5年経過しており、1つの家族のような関係になってきており、利用者から色々な知恵を頂いたり、昔話から学ぶ事も多く、楽しみを共に共有することが多くなってきている。		人と人との関係を続けて接していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の答えやすい質問の仕方を工夫して聞いたり、アンケートを反映させて希望に沿うよう努めている。ご家族にも意向を聞いている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族に希望を聞いたり、本人が何を求めているのか職員で話し合い、介護計画を作成している。運営会議での意見なども反映に努めている。ICF視点でアセスメントを行っている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフ会議や毎日のミーティングで職員で話し合い、利用者の状態に応じて計画を作成したり、現状に沿って見直している。	○	大変ではあるが、重要なことなので今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を可能な限り聞いている。清寿苑関連の機能の有効活用をしている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った対応をして医療への支援・介助を行っている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に話し合いをしている。ターミナル時には法人の特養や病院等も視野にいれ家族と話し合っている。		医療の加護が必要になることを予測し、事前に法人の特養に申し込みを行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに十分注意しながら個人の尊厳を大事にしている。記録等には守秘義務を常に考え行っている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重して、なるべく希望に沿うように支援したり、日々お一人お一人の気分や状態に合わせたケアに努めている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事アンケートを行いメニューを作成したり、職員も一緒に食事をしてコミュニケーションを計っている。準備や片付けにも参加していただいている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3日入浴日で、その時に応じた、ハーブやバラ、ミルク風呂など楽しんでいただき、夏場は外出より帰苑した時など希望時に行っている。	○	月に1～2回は夜間入浴を実施していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ちりめん手芸、工作物、着物ほどこき、塗り絵、ピアノ弾き、食事作りの支援やピアノ鑑賞当で楽しんで頂いている。	○	もっと色々なことを提供できるように職員も努力していきたい。楽しみを共感する為に本の貸し借りもしていきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を見ながら、散歩、ウォーキング、ドライブ、買い物、外食を希望に沿って行ったり御家族との外出も支援している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やフロアは鍵をかけずに対応しているが、内扉は開いているが、玄関は自動で鍵がかかるようになっており閉まっている。窓も危険防止のため全開できないようになっている。	○	なるべく鍵をかけずに対応できるようにしたいと思っている。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を1年に1回行い、災害時に対応できるようにしている。近隣の方々との交流も行っている。	○	訓練が年1回しかない為もう少し増やしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取のチェックを行い、1人1人がバランスの良い栄養摂取が出来るようにしている。又利用者にアンケートをとったりして、出来るだけ好きな物を食べて頂けるようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内にも季節にあった飾りつけを行い、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家で使われていた物を居室に置いて頂いている。装飾品や身の回りの小物入れ等、家にいた時同様居心地良く過ごせるよう工夫している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム びやくしんの苑
所在地 (県・市町村名)	240-0113 神奈川県三浦郡葉山町長柄62-4
記入者名 (管理者)	高橋 正美
記入日	平成 20 年 3 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人「百鷗」としての理念を掲げている。当社も利用者が今までと同じように地域の中で楽しく、心穏やかに生活できる様、日常生活や地域との交流をしながら、その人らしい暮らしができるよう支援している。		今後も継続していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を共有し、理念は苑内各所に掲示している。年度別に事業計画を立てたり、理念の実践に取り組み達成できるよう努力している。		今後も継続していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	積極的に地域の町内会や自治会との交流を図り、びやくしん便りを発行し地域住民のホームへの招待や、行事参加したり、こども100番も引き受けて、より地域に密着してもらえるよう取り組んでいる。		今後も持続していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	年1回バザー開催し、苑内を開放したり散歩や外気浴をしていると、近隣の住民から挨拶されたり、時々差し入れを頂いたり、敬老会や行事には招待してお付き合いしている。	○	更に気軽に立ち寄ってもらえるような、日常的な付き合いをしていきたい。暖かくなってきたら、ゴミステーションの掃除をしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や小学校とのふれあいフェスティバルや運動会、卒業式への招待や幼稚園との交流や、行事への招待、葉山町の福祉文化作品展への作品出品等をして交流に努めている。		今後も継続していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎日の会議の中で話し合いをしている。時々、近所の方やバザーの時など、吊るし雛を教えてほしい時等、利用者が教えて作品を作りあげている。又、着物の部位等、若い職員が教えてもらっている。	○	利用者の持っている可能性をもっと引き出して伝えていきたい。
---	--	--	---	-------------------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価の意義を理解している。評価を実施するからではなく、日々利用者1人1人の意見を大事にしたり、苑内を綺麗にしたりして、心地よく過ごせるよう改善に取り組んでいる。	○	今後も向上心を持って取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年3月、7月、11月に実施した。メンバーは、葉山町福祉課職員、町内会代表(民生委員)家族代表、グループホームで構成し、年4回実施。苑内での現状報告や話し合いを行っている。		今後も継続していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは常に連絡をしており、情報交換している。	○	運営推進会議に出席して頂いたり、入退所検討委員会等に出席している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等には参加しており、必要に応じて活用していきたい。		今後も継続していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加して、得た情報をスタッフ会議の中で報告し防止に努めている。	○	虐待は決してあってはいけない事なので、今後も意欲的に防止に取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解して頂いている。		今後も十分な説明を行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にアンケートを取ったり、会話の中から意見や希望、不満等を見つけ出す様努力している。	○	なかなか本人の口からは言えない事もあると思うので、なるべく会話の中から察してあげられる様よく話を聞いてあげたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回利用者の状況や近況の写真や金銭出納帳等を添えて報告。転倒があった時は早急に連絡したり、家族が安心できるよう、できる限り多種に渡って報告をしている。家族来苑時には、状況説明をし、希望や意見を聞き介護計画に反映している。		今後も継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族に意見を聞き対応している。意見等はその都度ミーティングや会議、連絡ノートで伝えたりして話し合いをしている。		今後も継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議や常勤会議を開催し、意見を発表し話し合いを行っている。又日常時意見があれば朝、夕のミーティングで発表している。	○	職員1人1人意見や提案を持っていると思うので、会議とは別に職員の聴く機会を作りメンタル部分も含めて話し合いをしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に応じて、できる限り細かな時まで対応できるよう調整している。		今後も継続していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員でのケアを大切にし、心地よい職場環境作りを。又代わる場合は利用者へのダメージを十分配慮している。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修年間計画を立て、段階的に研修に参加している。法人としても、資格取得やトレーニングしていく事を進めている。		今後も継続していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	葉山ではグループホーム同法人2件の為、法人同士の交流はしている。今後は逗子のグループホームとの交流を図っていく会議は出来ている。	○	今後は同業種との交流の機会を持ち、情報交換をしながらサービスの質の向上をさせていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人として、年1回産業医との面接を行っている。苑としては、アロマやお香で癒しの空間作りを行っている。	○	今後は職員の健康管理にも十分力を入れてストレス軽減を図り、より良い職場環境を作っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自向上心を持って働けるような環境作りに努めている。		今後も継続していきたい。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が不安がなくて、生活できるように意見を聞くよう努力している。	○	今後も利用者から話をよく聞き、求めている事等を聞いて受け止める努力をしていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から困っている事や、希望等をよく聞き解消できるよう努めている。		今後も持続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をよく聞き、その時必要としている支援内容を見極め、対応に努めている。		今後も必要な支援をしていきたい。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の今までの生活状況を考え、本人が安心して場の雰囲気慣れて馴染めるよう、その人らしく過ごせるよう、家族と相談しながら対応している。		今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開設後5年経過しており、1つの家族のような関係になってきており、利用者から色々な知恵を頂いたり、昔話から学ぶ事も多く、楽しみを共に共有することが多くなってきている。		人と人との関係を続けて接していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	その都度色々なお知らせ、共同で支えていけるような関係を築いていけるよう努力している。		人と人との関係を続けて接していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状況をお知らせしたり、話を伺ったりして理解に努めている。	○	利用者にとっては家族の面会が何よりの喜びだと思う。もっとそのような機会を多く作っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や馴染みの方が訪問しやすいよう、大切な人への苑への招待など積極的に行っている。		積極的に行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良く困った時には、支えあうよう心がけている。又、孤立しないよう席の配置や日常のレクリエーションの改善や対応には考慮している。	○	時間の経過と共に利用者の理解力に変化が生じてきているので、まとめていくのは大変になってきているが関わりあいのできるよう努力していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、家族と連絡を取り合い、来苑されたり、年1回のバザー時にお知らせしたり、お付き合いさせていただいている。	○	バザーや催し物時には連絡をとり来て着て頂いたり、お手伝いをしていただいている。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の答えやすい質問の仕方を工夫して聞いたり、アンケートを反映させて希望に沿うよう努めている。ご家族にも意向を聞いている。		今後も継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族来苑時に一人一人の馴染んできた家具を設置する等ストレス解消に向けた暮らし方が出来るよう、把握に努めている。		今後も継続していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のミーティング時や利用者との会話の中から情報を得て、1日の対応をしている。		今後も継続していきたい。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族に希望を聞いたり、本人が何を求めているのか職員で話し合い、介護計画を作成している。運営会議での意見なども反映に努めている。		今後も継続していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフ会議や毎日のミーティングで職員で話し合い、利用者の状態に応じて計画を作成したり、現状に沿って見直している。	○	大変ではあるが、重要なことなので今後も続けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況を個別ケース記録に残し、ミーティング時に細かい点々話し合い新たな実践を行っている。		今後も継続していきたい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を可能な限り聞いている。	今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアさんに協力していただき、民謡・手品の実施。近隣の教育施設への行事参加、利用者の知人等の支援を受けている。	少人数の構成の為、大きな施設の様な大規模なことは出来ないがきめ細かいものを作るよう支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてサービス事業者との話し合いやサービスを利用するものの支援をしている。	今後も継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後は必要性に応じて地域包括支援センターと協働していきたいと思っている。	今後も継続していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	家族の希望に沿った対応をして医療への支援・介助を行っている。	今後も継続していきたい。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて相談したり支援している。	今後も継続していきたい。
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	まず家族に相談して、情報を得ている 必要に応じて法人の看護師より支援され行っている。		今後も継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常に情報交換したり、面会に行き安心して頂くように努め環境の把握と相談に努めている。		今後も継続していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に話し合いをしている。ターミナル時には法人の特養や病院等も視野にいれ家族と話し合っている。	○	法人の特養に申し込みを行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合でも出来る限りの支援に取り組んでいるが、現実的には限界もあり検討課題としている。		今後も継続していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と十分に話し合いをしたり、法人全体で情報交換を行い住み替えへのダメージ、不安の解消に努めている。		今後も継続していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに十分注意しながら個人の尊厳を大事にしている。記録等には守秘義務を常に考え行っている。		今後も継続していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定がしやすい質問の仕方を工夫したり、個人差はあるが自ら決められる方にはそれに合わせた対応をしている。		今後も継続していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重して、なるべく希望に沿うように支援したり、日々お一人お一人の気分や状態に合わせたケアに努めている。		今後も継続していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の身だしなみの支援や美容師さんの来苑や化粧、美颜エステ、マニキュア、ヘアダイなど 本人のおしゃれの希望を聞きながら支援している。		今後も継続していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に食事アンケートを行いメニューを作成したり、職員も一緒に食事をしてコミュニケーションを計っている。準備や片付けにも参加していただいている。		今後も継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現状では、酒、タバコを好む方はいないがおやつや飲み物は希望を取り入れ状況に合わせて工夫している。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、薬に頼らず運動や食事等にも気を配り、気持ち良く排泄できるように支援している。	○	かなり細かく対応しているが、今後も継続していきたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3日入浴日で、その時に応じた、ハーブやバラ、ミルク風呂など楽しんでいただき、夏場は外出より帰苑した時など希望時に行っている。	○	月に1～2回は夜間入浴を実施していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人に合った入床時間や、状況に応じて安心して眠れるような環境作りに努め、夜間2時間おきの巡回と室温調整、換気、必要に応じて湯たんぽも行っている。		今後も継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ちりめん手芸、工作物、着物ほどこき、塗り絵、ピアノ弾き、食事作りの支援やピアノ鑑賞などで他の新で頂いている。	○	もっと色々なことを提供できるように職員も努力していきたい。楽しみを共感する為に本の貸し借りもしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望に応じて、お金を持つ方もいたり買い物時に所持して使えるように支援している。		今後も継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を見ながら、散歩、ウォーキング、ドライブ、買い物、外食を希望に沿って行ったり御家族との外出も支援している。		今後も継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	アンケートを行い、日帰り旅行、みかん狩り、お花見等年間行事に取り入れて外出の支援をしている。	○	新しいところも良いと思うので、デパートやショッピングモールへもお連れしたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、自ら電話して頂き手紙や年賀状などは職員と一緒にポストまで出しに行っている。	○	絵手紙をやってみたい。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間を定めず、必要時訪問して頂き、居室やフロアで気軽に会話できるようにしている。		今後も継続していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日のミーティングや会議で職員同士話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		今後も継続していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やフロアは鍵をかけずに対応しているが、内扉は開いているが、玄関は自動で鍵がかかるようになっており閉まっている。窓も危険防止のため全開できないようになっている。	○	なるべく鍵をかけずに対応できるようにしたいと思っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は数人の職員で利用者の所在を把握し、夜間は職員が一人の為に定期的に巡回し安全に配慮している。		今後も継続していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要に応じ出し入れし、危険のないよう取り組んでいる。		今後も継続していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に注意し事故防止に努め、1人1人の状態に応じ対応している。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	認知症介護者教室で研修を行ったり、急変時や事故発生時のマニュアルを作成し対応している。	○	定期的に訓練はしておらず、分からない職員もいる為定期的に行いたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を1年に1回行い、災害時に対応できるようにしている。近隣の方々との交流も行っている。	○	訓練が年1回しかない為もう少し増やしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の変化等職員で話し合い、毎月御家族に介護記録表を送付し対応している。		今後も継続していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者1人1人に目を配り、毎日のミーティング時に状況に応じ申し送りを行い、情報を共有している。		今後も継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が服薬している薬の処方せんを職員が見れる所に置き、用法、用量を徹底している。		今後も継続していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や食事に対応している。体操や歩行をしたり、できるだけ体を動かして頂いている。		今後も継続していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをして頂き、出来ない利用者には介助している。毎月1回、歯科医が来苑し必要時治療も行っている。		今後も継続していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取のチェックを行い、1人1人がバランスの良い栄養摂取が出来るようにしている。又利用者にアンケートをとったりして、出来るだけ好きな物を食べて頂けるようにしている。		今後も継続していきたい。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員、利用者共に日々の手洗いや、うがいを実践している。又、定期的に苑内の消毒を行ったり、マニュアルを作成し予防に努めている。		今後も継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン内の清掃、消毒、食材のチェックは毎日行い衛生管理に努めている。	○	レンジの清掃も定期的にしたい。賞味期限を細かく記入したりした方が分かりやすいのでいいと思う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節ごとに花を植え替えたり、飾りつけをしたりして、季節感を出したり、明るい雰囲気作りを心がけている。		今後も継続していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内にも季節にあった飾りつけを行い、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		今後も継続していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をする席は気の合う方同士で座って頂き、窓際に小スペースを設け、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		今後も継続していきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家で使われていた物を居室に置いて頂いている。装飾品や身の回りの小物入れ等、家にいた時同様居心地良く過ごせるよう工夫している。		今後も継続していきたい。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温・湿度計をチェックし、1日2回の換気を行い、利用者の状況に応じこまめに行っている。又アロマオイルやお香等で匂いを消す努力をしている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全面バリアフリーになっており、手摺の設置や床にあまり物を置かないようにするなど、出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>1人1人の状況を考え、出来るだけ自立して暮らせるように支援している。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>天気の良い日は外気浴をしたり、庭で軽食やティータイムをしたり、夏場はバーベキューやソーメン流しをして楽しんでいる。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)